

平等・平和・持続可能な社会の構築 に向けた 「開発とジェンダー」の取り組み: 国際協力の視点から

国連大学・お茶の水女子大学共催国際シンポジウム
「サステナビリティとジェンダー」

2014年11月1日

コメンテーター

JICA国際協力専門員(ジェンダーと開発)

田中 由美子

1

EQUAL , PEACEFUL AND SUSTAINABLE SOCIETY 今日の発表から

私たちの望む未来とは？

変化の風は吹いているのか？

- Gender-Equal Society(ジェンダー平等)
- Diversity and Inclusiveness (多様性・社会的包摂)
- **Resilient Society**: Conflict, Disaster Risk Reduction(DRR)
(社会の復元力)
- **共生社会**: 自然環境との共生、多様な人々との共生、次世代との共生(将来世代に無責任にならない)、先進国・途上国の共生、etc.
- **安全・安心な社会**、分裂・崩壊しない社会、絆のある社会、棄民しない社会、対立から協働の社会へ、市民権保障(少数民族、等)

2

SUSTAINABLE DEVELOPMENT AND GENDER

1. 持続可能な社会にとって不可欠な価値としてのジェンダー:
人権、非暴力、多様性、人間としての尊厳が保障されないと社会は
持続可能にならない。
2. 女性が生産、再生産、社会的ネットワークに不可欠な役割
 - 生産に果たす女性の役割（認識・可視化されてこなかった）
 - 世帯内、コミュニティにおける再生産、ケア・ワーク（持続性）
 - 環境・生態系の再生産への役割
 - 社会の再生産、再構築に向けた役割
3. 持続性とジェンダーの関連性が無視される：開発の恩恵を受けられに
くい。阻害要因がある。声を上げることができない。エンパワーされるこ
とが必要。
4. 不平等な制度や社会が改革されないといけない。

3

開発のジェンダーインパクト

全ての人々の暮らしの向上を目指したはずの開発は、必ずし
も全ての人に同様の恩恵をもたらしてきたわけではない。

女性や社会的・環境的弱者は排除されてきた。

その結果、開発により貧富の格差が拡大するインパクト、環
境・生態系に優しくない社会も発現

➡ 社会的・環境的な公正を目指す開発

➡ 結果として平和で持続的な社会

4

途上国の女性はなぜ声をあげられないのか

- 女性に不利な状況をもたらす慣習や考え方
 女児忌避、女子教育への偏見など。
 GBV (ジェンダーに基づく暴力)、トラウマ
- 固定的な性別役割、ジェンダー役割
 女性の社会参加からの排除
 社会的意思決定過程: 参加しても声を挙げられない。
- 生産や生活に必要な資源へのアクセスの制約 (土地、技術、教育、情報、雇用、金融、水、食料、エネルギー、医療・保健、等)



経済力、教育のみで十分か？
 包括的なアプローチが必要

5

JICA の協力指針: ジェンダー平等と女性のエンパワメント



開発目標	ジェンダー平等と女性のエンパワメント				
戦略目標	女性の社会参画とリーダーシップの実現				
優先開発課題	I 女性の経済的エンパワメントの推進	II 女性の人権と安全の保障	III 女性の教育と生涯にわたる健康の推進	IV ジェンダー平等なガバナンスの推進	V 女性の生活向上に向けた基幹インフラ整備
	女性の生産資源へのアクセス向上、生計向上、雇用・就業機会の拡大、起業の推進	紛争や災害、暴力や人身取引被害からの女性の保護と社会復帰・自立支援	女性の生涯にわたる健康の推進、女性の自己実現に向けた教育の推進	ジェンダー平等を推進する政策・制度の整備と組織の能力向上	女性の生活と活躍を後押しする農村・都市インフラの整備

●女性の可能性(ケイパビリティ)の強化 ●差別の撤廃 ●生活基盤整備

6

農業・農村開発とジェンダー

アフリカ



マダガスカル

中央高地コメ生産性向上プロジェクト (PAPRIZ)

男女両方のニーズを確認し、効果的なプロジェクトの実施に活かす

援助形態: 技術協力プロジェクト

協力期間: 2009年から2015年

相手国機関: 農業省

プロジェクトの概要・背景:

- マダガスカルの主食はコメ。しかし、サイクロンなどの影響でコメの国内生産量が変動しやすく、コメ消費量の約10%は輸入。
- マダガスカル政府は、2008年からの10年間で、コメの収量を3倍に増加させることを目指している。
- プロジェクト目標: モデルサイトのコメ生産性の向上
- 主な活動: コメの生産性向上のための「技術パッケージ」の開発、種子の増殖・配布体制整備、コメ生産技術の指導体制の整備など

これまでの成果:

- コメの収量が倍以上に
- 世帯の純収益が10倍以上に
- 農家のコメの自給状況や生活状況が改善



農業・農村開発とジェンダー

アフリカ



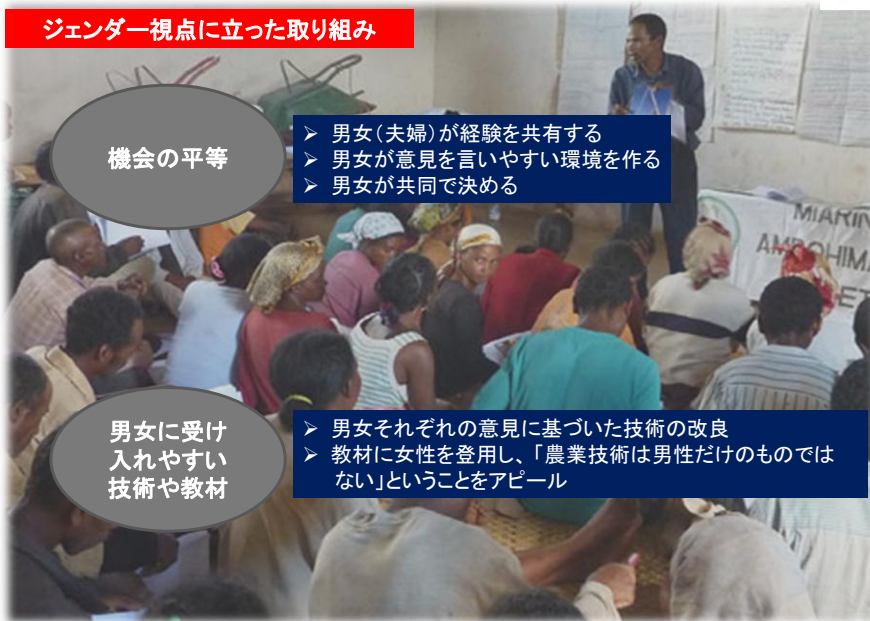
ジェンダー視点に立った取り組み

機会の平等

- 男女(夫婦)が経験を共有する
- 男女が意見を言いやすい環境を作る
- 男女が共同で決める

男女に受け入れやすい技術や教材

- 男女それぞれの意見に基づいた技術の改良
- 教材に女性を登用し、「農業技術は男性だけのものではない」ということをアピール



ジェンダー 女性に対する暴力
アジア



タイ・人身取引被害者保護・自立支援促進プロジェクト ミャンマー・人身取引被害者自立支援のための能力向上プロジェクト ベトナム・人身取引対策ホットラインにかかる体制整備プロジェクト

人身取引の被害を予防し、被害者の自立した生活再建を後押しする

プロジェクトの背景:

- メコン川流域地域での近年の経済のグローバル化に伴う国家間の経済格差、都市部と農村部の貧富の格差に基づく労働力移動、ジェンダーに基づく伝統的な規範
⇒ 国内および国境を越えた人身取引の拡大
- 人身取引の主な被害者は女性と子ども
家族を支えることを期待される ⇒ 人身取引に巻き込まれやすい
- 性的搾取や強制結婚の被害にあった女性の多くは、自分の国に帰還しても、社会的にも経済的にも非常に困難な生活を送らざるをえない。

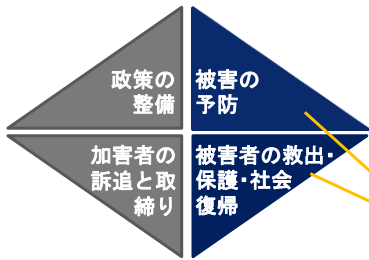
メコン川流域地域における主な人身取引のルート



ジェンダー 女性に対する暴力
アジア



人身取引対策の枠組



国名: ベトナム
事業名: 人身取引対策ホットラインにかかる体制整備プロジェクト (技術協力プロジェクト)
協力期間: 2012年から2015年
相手国機関: 労働傷病兵社会省
プロジェクト概要: 人身取引の予防と被害者の社会復帰支援のためのホットラインの運営体制整備

国名: タイ
事業名: 人身取引被害者保護・自立支援促進プロジェクト (技術協力プロジェクト)
協力期間: 2009年から2014年
相手国機関: 社会開発人間安全保障省
プロジェクト概要: 被害者の救出や保護、社会復帰支援を包括的に取り組むための「多分野協働チーム」の機能と連携の強化

JICAの主な支援分野

国名: ミャンマー
事業名: 人身取引被害者自立支援のための能力向上プロジェクト (技術協力プロジェクト)
協力期間: 2012年から2015年
相手国機関: 人身取引対策中央委員会
プロジェクト概要: 人身取引被害者支援にかかわる関係者の能力の強化と人身取引被害者の保護や自立に向けた取り組みの改善

人身取引の被害を予防し、被害者に寄り添った支援で被害者の自立した生活再建を後押しする



10

平和構築とジェンダー

アフリカ

jica

コンゴ民主共和国 国家警察民主化研修

警察の能力を高め、女性が安心して暮らせる社会づくりを支援

援助形態：現地国内研修

期 間：2011年から2013年

相手国機関：国家警察

プロジェクトの概要・背景：

- 周辺国の介入や反政府武装勢力の台頭などにより、1990年代から紛争が継続
⇒現在は徐々に安定化へ向かいつつあるが、治安の回復・確保が国家の最優先課題
- 国家警察は、複数の反政府武装勢力の統合も経て現在に至っており、その多くは警察としての基礎的な知識を身につける機会もなく職務に就いている。



- JICAは、国家警察、MONUSCO、UNDPと協力し、2004年度より、首都近郊や紛争の続く東部で、国家警察を対象に各種研修を実施
⇒国家警察の人材育成を支援(受講した警察官は約2万人)
- プロジェクトの内容：新規採用警察官およびこれまで警察官としての訓練を受ける機会がなかった現職警察官(元反政府武装勢力から統合された警察官を含む)が、警察官としての基礎知識を習得するための6ヶ月間の長期基礎研修

11

平和構築とジェンダー

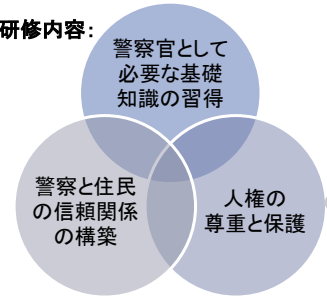
アフリカ

jica

警察官としての基礎知識を習得するための長期基礎研修

目標：民主国家として人権、自由を遵守し
効果的に任務を遂行する警察官の育成

研修内容：



警察官として必要な基礎知識の習得

警察と住民の信頼関係の構築

人権の尊重と保護

ジェンダー視点に立った取り組み

研修内容：

- 性的暴力の防止
- 児童保護
- ジェンダー平等
- 基本的人権概念

- 性的暴力の防止
- 警察による二次被害の防止

背景：

- 特に東部における反政府武装勢力による性的暴力
- 軍や警察による性的暴力
- 司法が機能していないため犯罪者が処罰されない⇒犯罪を助長

女性が安心して暮らせる社会へ

12

災害復興とジェンダー

アジア



フィリピン

台風ヨランダ災害緊急復旧復興支援プロジェクト

復旧・復興支援に女性の参加を促進し、災害に強いコミュニティを再建する

援助形態： 開発計画調査型技術協力

協力期間： 2014年から2016年

相手国機関： 内務地方自治省

プロジェクトの概要・背景：

- 2013年11月にフィリピンを襲った台風30号「ヨランダ」により、死者6,000人以上、被災家屋100万戸以上、避難民400万人以上の被害。ヨランダにより被災した地域の早期復旧・復興と、より災害に強い地域・社会づくり
- 東日本大震災等からの復興をはじめとする日本の経験の共有を重視
- 主な活動：
 - ①災害に強い地域づくりのための中期的復興計画策定支援
 - ②地域の主要産業であるココヤシや養殖、小規模農水産加工産業の再開支援、公共施設の復旧、災害に強い施設を復旧・復興するための技術者の技能の向上支援など、即効的な効果が見込める緊急復興事業（クイックインパクト事業）の実施



クイックインパクト事業対象地域
(赤い部分)

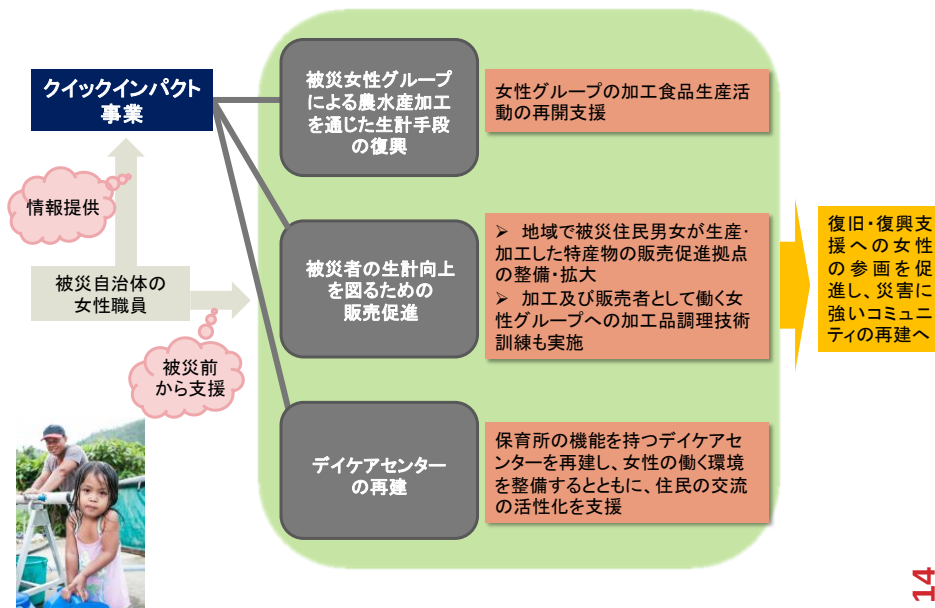


災害復興とジェンダー

アジア



ジェンダー視点に立った取り組み



保健とジェンダー
中東


パレスチナ

母子保健に焦点を当てたリプロダクティブヘルス向上プロジェクト 母子保健リプロダクティブヘルス向上プロジェクト・フェーズ2

「生命(いのち)のパスポート」と呼ばれる母子健康手帳

援助形態: 技術協力プロジェクト 2005年から2012年

相手国機関: 保健庁

プロジェクトの概要・背景:

- 紛争や分離政策(分離壁や検問所など)により人々の移動が制限される
 - ⇒ 妊婦健診や出産、子どもの予防接種を
複数の医療施設で受診する女性が多い
- 母子保健サービスは、医療施設によって、独自の形で提供され、記録方法も統一されていない
 - ⇒ **母子が継続したサービスを受けにくい**
- 目的: 母子保健医療施設へのアクセスと継続的な母子保健ケアの向上
- 主な活動: アラビア語初の母子健康手帳の開発
母子健康手帳活用のための仕組みづくり
パレスチナ全土での母子健康手帳の活用
母子保健従事者への技術訓練



15

保健とジェンダー
中東


機能

携帯可能な医療記録

母子保健サービスの統一

健康教育教材

➔

ジェンダー視点から見た母子健康手帳の効果

女性の意思決定への参加

女性が健康に関する知識を得る

⇒健康管理や子育てについての意見を言えるようになる

⇒家族計画について夫と話し合う機会ができる

男性の参加

子どもを予防接種や乳児健診に連れてくる男性の増加

母子健康手帳 = 「生命(いのち)のパスポート」

レバノン、シリア、ヨルダンの
パレスチナ難民キャンプでも
配布・活用

➔

国境を越えても、継続的な
サービスが受けられるよう
になり、多くの女性や子ども
の命が守られている

16

変革のためのジェンダー： **GENDER, VOICE & AGENCY (WB)**

女性が高い経済力や教育を得られれば差別されなくなるのか？

(シェリル・サンドバーグからの挑戦)

ジェンダー視点に立った批判的な学習

ジェンダーレンズで既存の社会の構造やシステム、不平等の要因を分析し、学習することにより、そこから変革のための行動を起こしていく。



Agent for Change & 変革のための学習

自分が価値あると考えることを選択し行動することができる能力、
多様な機会を自分が実現したいことに転換できる実現可能性
(capability)やenabling environment、環境・制度の構築

17

政策・制度構築へどのようにつなげ、インパクト を継続していくのか？ **SCALING-UP!**

現場の声、コミュニティでの知見や教訓をどのように国家政策、グローバルな政策(Global Agenda)や新しい価値観の形成につなげていくのか？

◆ 政策・施策などの策定への女性の参画：

女性の政治への参画、法律・条例・基本計画などの策定への参画。

◆ 市民団体(コミュニティパワー)による継続的な政策ロビーイング、監視：

脱原発・地域エネルギーの活用、災害と男女共同参画、等

◆ グローバル・アジェンダへの統合、多様な地球市民とのネットワーク構築：

- ESD and Global Action Program
- 国連安保理決議、UNSCR1325国内行動計画
- 2015国連女性の地位委員会(北京+20)
- Sustainable Development Goals (SDGs)
- 2012UNCSD (リオ+20)、2015国連防災世界会議(仙台)、等

18